

催前、四日間豫習會を開き、自ら其講師たられ、爲に初學者を益する處尠からず、又遠來の會友藤田紫舟氏は、開會中大下講師を輔けて、會員を指導せられ、猶會員並河榮四郎氏は、會場の借入設備萬端に就き盡力せられたる等、何れも感謝措く能はざる處、茲に謹んで謝辭を呈す。

## 松江講習雜感

飄花

○講習第一日に先生の作品を拜見した時の感じは一寸忘れることは出来ない、嬉しいやら珍らしいやら、私等の様な原色版組は只呆乎としてしまつた。然し二度目に説明をして戴いた時には、調子とか色彩とか少しは分つた、そして原色版と異なる點も認め得た。以來は原色版に對しても原畫の感じを想像して見る事が出来ると思つた。

○先生のお顔は寫眞で度々拜見してゐた故か、初にお目にかゝつた様な氣はしなかつた、そして想像してゐた通りの人格のお方であつた。全く江戸兒式で誰れにでも能く談されるのは嬉しかつた。多數の學生が敬慕する譯だと思つた。講話振りもむまゝいものであつた。あれが三脚君かと思ふとお可笑かつた。

○講話で思ひ出したが、竹下先生の透視畫法の講話もお手のものであつた。口が三分で手眞似が七分であつた。

○松江は水郷丈けあつて、他では澤山に見られない構圖を有してゐた。公園は感服しなかつた。御自慢の大橋も橋梁美はなかつた、あれが極ライズの少ないフラット、アーチであつたら面

白ろからうと思つた。

○畫材に苦しむのは馬鹿くしい、先生は宿の前の蘇鐵と裏の凌霄花も畫面に入れておかれた。成程畫材は何處でもあると思つた。吾々がそれを見出す事の出来ないのは目の修養が足りないからだ。

○講習で澤山な繪を見て目を肥やした他に、直接印象したものは少かつた。要するに講話は『みづる』を熟讀すれば分ることである、然し歸つてから一枚畫いて見ると、妙に畫き振りがこはれてゐたのは自分ながら驚いた、是れが講習の効果であらうと思つた。同感の會員もあるのに違ひない。

## 合宿所評判記(松江講習會)

松江の宿は實に愉快だつたね、△全くだよ名前からして威勢の良い日の出館さ△其處でこの宿の同志を自ら命名して日の出黨は振つたらう△あまり美術的な命名でもないね△扣へてる黨員僅かに十一名ではあつたが遠く千山萬波を越えて來た土佐節廣島ガンスの古つはものを始めとして孰れも目の出の如き有爲な連中斗りよ△それが悉く意氣相投して仲のよい事不思議な位△人數は少なくて室は廣い上に清潔△殊に湖岸に臨んで居るので涼風不斷は何よりの御馳走△加ふるに二階から見た朝夕湖上の美觀は壯絶麗絶△欄干越しに素ツ裸體でスケッチが出来る△何しろ空前の合宿所であつた△大に主催者に感謝します△タツタ十一人ぢや珍談も有まいね△どうして處が大有り△既に